

【表紙】

| | |
|------------|--|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成24年8月10日 |
| 【四半期会計期間】 | 第152期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日） |
| 【会社名】 | 株式会社リンコーコーポレーション |
| 【英訳名】 | RINKO CORPORATION |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 坪井 鈴兒 |
| 【本店の所在の場所】 | 新潟県新潟市中央区万代五丁目11番30号 |
| 【電話番号】 | 新潟025（245）4113番 |
| 【事務連絡者氏名】 | 常務取締役管理本部長 山下 和男 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都千代田区岩本町二丁目1番18号 フォロ・エムビル6階 株式会社リンコーコーポレーション 東京支社 |
| 【電話番号】 | 東京03（3864）2424番 |
| 【事務連絡者氏名】 | 常務取締役東京支社長 南波 秀憲 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社リンコーコーポレーション 東京支社 （東京都千代田区岩本町二丁目1番18号 フォロ・エムビル6階） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第151期 第1四半期連結 累計期間 | 第152期 第1四半期連結 累計期間 | 第151期 |
|---------------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 会計期間 | 自平成23年4月1日 至平成23年6月30日 | 自平成24年4月1日 至平成24年6月30日 | 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日 |
| 売上高(百万円) | 5,009 | 4,710 | 19,604 |
| 経常利益(百万円) | 213 | 182 | 834 |
| 四半期(当期)純利益(百万円) | 129 | 117 | 530 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 60 | 68 | 1,197 |
| 純資産額(百万円) | 10,877 | 11,865 | 12,014 |
| 総資産額(百万円) | 39,331 | 38,324 | 38,906 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円) | 4.79 | 4.35 | 19.66 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円) | | | |
| 自己資本比率(%) | 27.7 | 31.0 | 30.9 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動は、次のとおりであります。

(ホテル事業部門)

平成24年4月1日付で当社を存続会社とし、株式会社リンコーホールディングスを消滅会社とする吸収合併を行っております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景に設備投資に持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復傾向にある一方、欧州債務問題や中国など新興国経済の伸び悩み、長期化する円高の影響等により、先行きの不透明感は依然として払拭できない状況にあるものと認識しております。

このような事業環境にあって当社グループは、営業力の強化に努めて参りましたが、主力である運輸部門において、新潟港が東日本大震災による被災港の代替港としての役割を終えたことから取扱貨物が減少し、減収減益となりました。一方、機械販売部門やホテル事業部門は、前年同四半期に比べ増収となりましたが、全体では減収減益となりました。

これらの結果、当第1四半期の売上高は47億1千万円（前年同四半期比6.0%の減収）、営業利益は1億7千8百万円（前年同四半期比1.4%の減益）、経常利益は1億8千2百万円（前年同四半期比14.6%の減益）となり、四半期純利益は1億1千7百万円（前年同四半期比9.0%の減益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

〔運輸部門〕

港湾運送事業における船内取扱数量は、新潟港における被災港代替機能の収束が大きく影響し、一般貨物、コンテナ貨物共に前年同四半期より減少し、145万1千トン（前年同四半期比22.4%の減少）となりました。

当社と運輸系子会社3社（新光港運株式会社、リンコー運輸株式会社、丸肥運送倉庫株式会社）を合わせた同部門の収入は26億9千万円（前年同四半期比14.3%の減収）、セグメント利益は7千1百万円（前年同四半期比56.7%の減益）となりました。

〔不動産部門〕

地代・家賃収入を合わせた同部門の収入は9千1百万円（前年同四半期比15.7%の減収）、セグメント利益は5千4百万円（前年同四半期比8.4%の増益）となりました。

〔機械販売部門〕

前年度からの積極的な営業活動により、大型の建設・産業機械の販売件数が増加し、同部門の収入は2億9千8百万円（前年同四半期比51.0%の増収）、セグメント損失は1千4百万円（前年同四半期は3千7百万円のセグメント損失）となりました。

〔ホテル事業部門〕

株式会社ホテル新潟では、東日本大震災発生後の法人・個人の自粛ムードにより落ち込んでいた売上が、震災発生以前の水準にまで回復いたしました。株式会社ホテル大佐渡においても、ゴールデンウィーク期間中の宿泊客数が、ほぼ震災以前の水準に回復し、更に修学旅行の受注も順調に推移いたしました。

これらの結果、同部門の収入は7億6千7百万円（前年同四半期比16.6%の増収）、セグメント利益は3千1百万円（前年同四半期は1千9百万円のセグメント損失）となりました。

[商品販売部門]

貿易収入は、住宅着工戸数の低迷による住宅資材の取扱減少や、衣類品の輸入落ち込みにより低調となったものの、商品販売収入において、大型工事の受注によりセメントや建材の取扱が増加した結果、同部門の収入は8億1千9百万円（前年同四半期比6.7%の減収）、セグメント利益は1千9百万円（前年同四半期比24.0%の増益）となりました。

[その他]

保険代理店業務、産業廃棄物の処理業務を合わせたその他の収入は7千8百万円（前年同四半期比23.9%の増収）、セグメント利益は1千5百万円（前年同四半期は0百万円のセグメント損失）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分及び事業セグメントの利益又は損失の測定方法を変更しており、前年同期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 96,000,000 |
| 計 | 96,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成24年8月10日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|-----------------|
| 普通株式 | 27,000,000 | 27,000,000 | 東京証券取引所 (市場第二部) | 単元株式数 1,000株 |
| 計 | 27,000,000 | 27,000,000 | | |

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (千株) | 発行済株式総 数残高 (千株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|--------------------------|------------------------|-----------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 平成24年4月1日～ 平成24年6月30日 | | 27,000 | | 1,950,000 | | 805,369 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 21,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 26,963,000 | 26,963 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 16,000 | | |
| 発行済株式総数 | 27,000,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 26,963 | |

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|------------------------------|-------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社リンコーコーポレーション | 新潟市中央区万代五丁目11番30号 | 21,000 | | 21,000 | 0.07 |
| 計 | | 21,000 | | 21,000 | 0.07 |

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|-------------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 589,071 | 728,919 |
| 受取手形及び営業未収入金 | 2 4,126,430 | 2 3,785,529 |
| たな卸資産 | 250,881 | 255,594 |
| 繰延税金資産 | 136,671 | 218,055 |
| その他 | 161,399 | 173,419 |
| 貸倒引当金 | 5,102 | 10,276 |
| 流動資産合計 | 5,259,352 | 5,151,242 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 22,315,988 | 22,328,731 |
| 減価償却累計額 | 14,685,051 | 14,793,192 |
| 建物及び構築物(純額) | 7,630,936 | 7,535,538 |
| 機械装置及び運搬具 | 2,292,477 | 2,286,431 |
| 減価償却累計額 | 2,001,231 | 1,981,940 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 291,245 | 304,490 |
| 土地 | 22,005,293 | 22,016,430 |
| リース資産 | 686,286 | 692,808 |
| 減価償却累計額 | 210,210 | 234,626 |
| リース資産(純額) | 476,076 | 458,182 |
| その他 | 1,192,423 | 1,207,611 |
| 減価償却累計額 | 1,035,024 | 1,052,373 |
| その他(純額) | 157,398 | 155,238 |
| 有形固定資産合計 | 30,560,951 | 30,469,880 |
| 無形固定資産 | | |
| リース資産 | 22,132 | 19,738 |
| その他 | 433 | 378 |
| 無形固定資産合計 | 22,566 | 20,116 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,016,260 | 1,758,684 |
| 繰延税金資産 | 54,848 | 49,629 |
| その他 | 1,640,187 | 1,504,772 |
| 貸倒引当金 | 649,980 | 631,727 |
| 投資その他の資産合計 | 3,061,316 | 2,681,359 |
| 固定資産合計 | 33,644,834 | 33,171,356 |
| 繰延資産 | | |
| 社債発行費 | 2,306 | 1,991 |
| 繰延資産合計 | 2,306 | 1,991 |
| 資産合計 | 38,906,492 | 38,324,590 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び営業未払金 | 2,089,936 | 2,096,305 |
| 短期借入金 | 6,800,000 | 7,000,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 2,650,602 | 2,545,976 |
| 1年内償還予定の社債 | 100,000 | 100,000 |
| リース債務 | 111,319 | 113,279 |
| 未払法人税等 | 348,260 | 135,631 |
| 賞与引当金 | 89,148 | 251,745 |
| その他 | 1,052,721 | 1,003,089 |
| 流動負債合計 | 13,241,989 | 13,246,029 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 100,000 | 100,000 |
| 長期借入金 | 5,058,544 | 4,774,153 |
| リース債務 | 402,731 | 379,736 |
| 繰延税金負債 | 1,406,897 | 1,324,406 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 5,805,018 | 5,806,436 |
| 退職給付引当金 | 477,411 | 463,614 |
| 役員退職慰労引当金 | 125,644 | 91,084 |
| 環境対策引当金 | 20,810 | 20,810 |
| 資産除去債務 | 103,117 | 103,661 |
| その他 | 149,345 | 149,169 |
| 固定負債合計 | 13,649,521 | 13,213,071 |
| 負債合計 | 26,891,511 | 26,459,100 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,950,000 | 1,950,000 |
| 資本剰余金 | 809,459 | 809,459 |
| 利益剰余金 | 641,306 | 677,830 |
| 自己株式 | 6,691 | 6,757 |
| 株主資本合計 | 3,394,074 | 3,430,532 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 74,916 | 109,614 |
| 土地再評価差額金 | 8,545,990 | 8,544,572 |
| その他の包括利益累計額合計 | 8,620,906 | 8,434,958 |
| 純資産合計 | 12,014,980 | 11,865,490 |
| 負債純資産合計 | 38,906,492 | 38,324,590 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-------------------|---|---|
| 売上高 | | |
| 運輸作業収入 | 2,801,658 | 2,376,343 |
| 港湾営業収入 | 60,721 | 53,465 |
| 不動産売上高 | 101,008 | 85,121 |
| 機械営業収入 | 160,553 | 270,119 |
| ホテル営業収入 | 655,165 | 764,583 |
| 商品売上高 | 867,677 | 807,840 |
| その他の事業収入 | 362,834 | 353,346 |
| 売上高合計 | 5,009,618 | 4,710,822 |
| 売上原価 | | |
| 運輸作業費 | 2,496,918 | 2,169,228 |
| 港湾営業費 | 46,817 | 47,315 |
| 不動産売上原価 | 50,234 | 32,164 |
| 機械営業費 | 165,046 | 256,177 |
| ホテル営業費 | 579,723 | 635,727 |
| 商品売上原価 | 839,603 | 780,145 |
| その他の事業費用 | 238,841 | 225,477 |
| 売上原価合計 | 4,417,185 | 4,146,235 |
| 売上総利益 | 592,432 | 564,586 |
| 販売費及び一般管理費 | 411,157 | 385,766 |
| 営業利益 | 181,275 | 178,820 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2,168 | 1,886 |
| 受取配当金 | 28,012 | 17,576 |
| 貸倒引当金戻入額 | 46,580 | 12,653 |
| 助成金収入 | 3,675 | 4,912 |
| 雑収入 | 9,796 | 13,672 |
| 営業外収益合計 | 90,232 | 50,701 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 47,292 | 44,507 |
| 雑支出 | 10,599 | 2,686 |
| 営業外費用合計 | 57,891 | 47,193 |
| 経常利益 | 213,616 | 182,327 |

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 57 | 1,432 |
| 資産除去債務履行差額 | 6,164 | - |
| 特別利益合計 | 6,221 | 1,432 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産処分損 | 3,805 | 20,197 |
| 投資有価証券評価損 | 8,687 | 31,993 |
| その他 | - | 1,816 |
| 特別損失合計 | 12,492 | 54,007 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 207,345 | 129,753 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 165,566 | 129,420 |
| 法人税等調整額 | 87,365 | 117,125 |
| 法人税等合計 | 78,200 | 12,294 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 129,144 | 117,458 |
| 四半期純利益 | 129,144 | 117,458 |

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 129,144 | 117,458 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 69,042 | 184,531 |
| 土地再評価差額金 | - | 1,417 |
| その他の包括利益合計 | 69,042 | 185,948 |
| 四半期包括利益 | 60,102 | 68,490 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 60,102 | 68,490 |

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(連結の範囲の重要な変更)

平成24年4月1日付で当社を存続会社とし、株式会社リンコーホールディングスを消滅会社とする吸収合併を行ったため、同社については、連結の範囲から除いております。

【会計方針の変更等】

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

(減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------|-------------------------|------------------------------|
| 受取手形割引高 | 千円 | 281,071千円 |

2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成24年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------|-------------------------|------------------------------|
| 受取手形 | 101,181千円 | 8,255千円 |
| 受取手形割引高 | | 115,821 |
| 支払手形 | 161,093 | 150,532 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 161,281千円 | 163,921千円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 平成23年6月23日 定時株主総会 | 普通株式 | 53,958 | 2 | 平成23年3月31日 | 平成23年6月24日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 平成24年6月22日 定時株主総会 | 普通株式 | 80,934 | 3 | 平成24年3月31日 | 平成24年6月25日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注) | 合計 |
|---------------------------|-----------|-----------|------------|-------------|------------|-----------|------------|-----------|
| | 運輸部門 | 不動産部 門 | 機械販売 部門 | ホテル事業 部門 | 商品販売 部門 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 3,135,956 | 101,008 | 186,825 | 655,165 | 867,677 | 4,946,632 | 62,985 | 5,009,618 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | 2,104 | 7,317 | 10,997 | 3,182 | 10,804 | 34,405 | 8 | 34,413 |
| 計 | 3,138,060 | 108,325 | 197,822 | 658,347 | 878,482 | 4,981,038 | 62,994 | 5,044,032 |
| セグメント利益 又は損失() | 166,443 | 49,865 | 37,298 | 19,794 | 15,749 | 174,965 | 281 | 174,683 |

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店業務、産業廃棄物の処理業務等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|---------|
| 報告セグメント計 | 174,965 |
| 「その他」の区分の利益 | 281 |
| セグメント間取引消去 | 2,374 |
| その他の調整額 | 4,217 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 181,275 |

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | | | その他 (注) | 合計 |
|-------------------|-----------|--------|---------|---------|---------|-----------|------------|-----------|
| | 運輸部門 | 不動産部門 | 機械販売部門 | ホテル事業部門 | 商品販売部門 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,688,245 | 85,121 | 286,981 | 764,583 | 807,840 | 4,632,773 | 78,049 | 4,710,822 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 1,764 | 6,166 | 11,803 | 3,213 | 11,620 | 34,567 | | 34,567 |
| 計 | 2,690,009 | 91,287 | 298,785 | 767,797 | 819,461 | 4,667,341 | 78,049 | 4,745,390 |
| セグメント利益又は損失() | 71,992 | 54,041 | 14,001 | 31,066 | 19,527 | 162,625 | 15,804 | 178,429 |

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店業務、産業廃棄物の処理業務等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間より、グループ経営の効率化、将来の事業環境の変化に迅速に対応できる体制を構築することを目的として、当社を存続会社とし、株式会社リンコーホールディングスを消滅会社とする吸収合併、当社と株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡において、当社が営む不動産賃貸事業の一部を他の2社が承継し、両社がそれぞれ営む不動産賃貸に係る事業の一部を当社が承継する吸収分割を実施しております。

この結果、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「運輸部門」で1,183,009千円増加、「不動産部門」で4,010,190千円減少、「ホテル事業部門」で279,421千円増加、「全社資産」で1,204,972千円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

| 利益 | 金額 |
|-----------------|---------|
| 報告セグメント計 | 162,625 |
| 「その他」の区分の利益 | 15,804 |
| セグメント間取引消去 | 252 |
| その他の調整額 | 138 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 178,820 |

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分の変更)

当第1四半期連結会計期間より、グループ経営の効率化、将来の事業環境の変化に迅速に対応できる体制を構築することを目的として、当社を存続会社とし、株式会社リンコーホールディングスを消滅会社とする吸収合併、当社と株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡において、当社が営む不動産賃貸事業の一部を他の2社が承継し、両社がそれぞれ営む不動産賃貸に係る事業の一部を当社が承継する吸収分割を実施しております。

このグループ再編により、従来、「不動産部門」に含まれていた、当社が営んでいた不動産の所有、売買、貸借、仲介及び管理事業のセグメント間取引と「ホテル事業部門」に含まれていた株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡の営んでいた土地の賃貸事業のセグメント間の取引が、それぞれ減少しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、グループ再編後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

各報告セグメントのうち、当社の販売費及び一般管理費の配賦につきましては、従来、各報告セグメントの固定費の割合に応じて配賦する方法によっておりましたが、経営管理上、各報告セグメントの事業効率を、より公正かつ適正に把握するため、当第1四半期連結会計期間より各報告セグメントに属する人員に応じて配賦する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費の配賦方法に基づき作成したものを開示しております。

(減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

5. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

当社は、平成24年4月1日に、当社を吸収合併存続会社、当社の100%連結子会社である株式会社リンコーホールディングス（同社は、株式会社ホテル新潟、株式会社ホテル大佐渡の100%持株会社）を吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。

また、同日、当社の100%連結子会社である株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡を分割会社、当社を分割承継会社とする吸収分割、並びに当社を分割会社、株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡を分割承継会社とする吸収分割を行っております。

1. 取引の概要

(1) 吸収合併

被結合企業の名称及びその事業の内容

被合併企業の名称 株式会社リンコーホールディングス

事業の内容 ホテル業務管理他

企業結合日

平成24年4月1日

企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、株式会社リンコーホールディングスを吸収合併消滅会社とする吸収合併

結合後企業の名称

株式会社リンコーコーポレーション

その他取引の概要に関する事項

グループ経営の効率化を図ることを目的としております。

(2) 吸収分割

対象となった事業の内容

イ 当社が承継する事業の内容

株式会社ホテル新潟、株式会社ホテル大佐渡の営んでいた土地の賃貸事業の一部

ロ 株式会社ホテル新潟、株式会社ホテル大佐渡が承継する事業の内容

当社が営んでいた不動産の所有、売買、貸借、仲介及び管理事業の一部

企業結合日

平成24年4月1日

企業結合の法的形式

a. 株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡を分割会社、当社を分割承継会社とする吸収分割

b. 当社を分割会社、株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡を分割承継会社とする吸収分割

分割に際して発行する株式及び割当

イ 上記、aの分割方式

該当事項はありません。

ロ 上記、bの分割方式

本分割に際して、吸収分割承継会社である株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡が、それぞれ普通株式1株を、当社に割当発行しております。

割当株式数の算定根拠

割当株式数の算定については、株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡が、当社と完全支配関係にあるため、当社と両社で協議の上、決定いたしました。

取得した事業の取得原価及びその内訳

イ 当社を分割会社、株式会社ホテル新潟を分割承継会社とする場合

取得の対価 当社から移転した事業に係る資産及び負債、評価・換算差額等の適正な帳簿価額

固定資産 3,348,628千円

固定負債 90,574千円

評価・換算差額等 270,541千円

取得原価 3,528,594千円

ロ 当社を分割会社、株式会社ホテル大佐渡を分割承継会社とする場合

取得の対価 当社から移転した事業に係る資産及び負債、評価・換算差額等の適正な帳簿価額

固定資産 1,225,568千円

固定負債 298,543千円

評価・換算差額等 64,298千円

取得原価 862,725千円

その他取引の概要に関する事項

当社と株式会社ホテル新潟及び株式会社ホテル大佐渡における連結グループ間の不動産賃貸借関係を見直し、事業用資産を実際に運営する事業会社に移管して、各社の採算性の透明化を図り、将来の事業環境の変化に迅速に対応できる体制を構築することを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日) |
|---------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 4円79銭 | 4円35銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益金額(千円) | 129,144 | 117,458 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る四半期純利益金額(千円) | 129,144 | 117,458 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 26,979 | 26,978 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年8月9日

株式会社リンコーコーポレーション
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十嵐 朗 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 清水 栄一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社リンコーコーポレーションの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社リンコーコーポレーション及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。